

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

- | | | |
|----|-----------------|-----------|
| 1. | 人文学部・人文社会科学研究科 | 4-1-1(研究) |
| 2. | 教育学部・教育学研究科 | 4-2-1(研究) |
| 3. | 医学部・医学系研究科 | 4-3-1(研究) |
| 4. | 工学部・工学研究科 | 4-4-1(研究) |
| 5. | 生物資源学部・生物資源学研究科 | 4-5-1(研究) |

人文学部・人文社会科学研究科

- I 研究水準 4-1-2(研究)
- II 質の向上度 4-1-3(研究)

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成19年度における教員一人当たりの平均学術論文は1.57件、著書0.45件、国内学会口頭発表数0.43件、国外学会口頭発表数は0.24件である。国内の他大学・研究機関との共同研究、シンポジウムの開催回数は、それぞれ52件、17件にのぼっている。また、国内学会での招待講演数、教員の海外派遣の数も増えている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数は24件であり、受託研究、受託事業、寄付金も実績を積み上げている。また、地域の政策形成に寄与する教員がいるなど、相応の成果がある。

以上の点について、人文学部・人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、人文学部・人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、人文学部研究センターに研究対象・目的別に四つの研究センターを置き、共同プロジェクトによる研究を進め、その研究成果は著書・論文により公表されている。社会、経済、文化面では、四日市公害問題についての学際的・総合環境科学的な研究に基づくシンポジウムの開催、紛争の原因としての開発問題や紛争後の国家再建などについて学際的に考察する平和学の研究による優れた業績をはじめとして、四国遍路がもつ巡礼と国家政策、国内観光やマスメディアとの関係を文化地理学、文化理論を用いて解き明かす研究など社会的に注目されている業績がある。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、人文学部・人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、人文学部・人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は1件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学部・教育学研究科

- I 研究水準 4-2-2(研究)
- II 質の向上度 4-2-3(研究)

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、外部資金の調達状況については、科学研究費補助金の申請件数、採択金額について増加傾向にあるが、新規採択件数、継続分を含む採択件数には変化は見られない。学術論文の発表状況については、日本語著書及び外国語著書については増加傾向にあるが、国内、国際双方の学術論文、さらに学会における発表においては、減少しつつあることは、相応な成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、教育学部・教育学研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で相応の優れた成果を上げている。学術面では、専任教員の学会賞等の受賞数は平成16年度から平成19年度にかけてそれぞれ1件、1件、2件、1件となっている。さらに、三次元人体形状計測を基に新たな衣服設計システムを構築した研究や幼児を対象に、積極的教示行為の獲得時期を実験的に解明した研究において卓越した成果を上げている。法人化以降、年次計画の元で異なる専門領域が協働して新たな研究分野を開拓するための研究プロジェクトが展開されている。社会、経済、文化面では、音痴矯正に対して生理学的観点から、新たな理論を構築する研究等の卓越した成果が出されていることは相応な成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学部・医学系研究科

- I 研究水準 4-3-2(研究)
- II 質の向上度 4-3-3(研究)

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、法人化後の専任教員数削減の中にあつて、学術論文数、教員一名当たりの論文数は大幅に増加し、著書数、国内外学会発表数も高い水準を維持している。また、共同研究、学部内での学際的研究、国内外学会・会議開催数も増加又は高い水準を維持している。さらに倫理委員会に申請された研究課題の増加は、医学・看護学分野の臨床、疫学研究の活発さを示している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金への応募は教員のほぼ全員が行い、その採択率は 25～40%台を維持しており、着実な獲得状況といえる。この他、共同研究費は平成 16 年度のほぼ 7 倍と増加し、受託研究費、奨学寄附金の受け入れ、産官学共同研究も活発に行われている。さらに、学内努力ではあるが、学部長調整費により「新研究プロジェクト」を立ち上げ研究費助成を行っており、若い教員の研究推進に大きな力となるなど、研究活動の活発さが窺われることは、優れた成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、研究科の研究目的に照らし、戦略的大型プロジェクトとして平成 18 年度特別教育研究経費(戦略的研究推進)の助成を受けた脳血管・神経研究センターにおける「炎症性血管病変による神経機能障害のメカニズムの解明」に関する研究、トランスレーショナルリサーチ事業に採択された「がんワクチン、腫瘍免疫療法の基礎的研究とその臨床応用研究」、科学技術振興機構戦略的創造開発推進事業(CREST プログラム)に採択された「免疫難病・感染症等の先進医療技術」の研究は、それぞれ高い評価を受けている。提出された論文について、学術面では、寄生虫学、血液内科学、皮膚科学、胸部外科学、産婦人科学に卓越した成果と評価できる論文があり、他の多くの論文が優れた論文と

の評価を受けている。社会、経済、文化面では、件数は少ないものの、半数が「相応の成果」との評価となっているなどの相応な成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

工学部・工学研究科

- I 研究水準 4-4-2(研究)
- II 質の向上度 4-4-3(研究)

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、平成19年度の教員一名当たりの平均論文数が約4件であり、そのうち欧文論文が和文論文の約3倍となっている。知的財産の出願届出数及び特許出願数は平成19年度で39件である。平成19年度の研究資金の獲得状況は、科学研究補助金8,900万円、共同研究・受託研究費、寄附金はそれぞれ約1億円、約1億2,000万円、約5,400万円で、企業・政府機関・地方自治体との共同研究を活発に実施している。学会賞も主要学会の論文賞を多く得ており、平成16年度以降、主要な受賞実績が16件あるなどの相応な成果がある。

以上の点について、工学部・工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、工学部・工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面ではロボティクス・メカトロニクス、地球環境・エネルギー、ナノサイエンス・ナノテクノロジー、先進物質・先進材料、社会基盤・生産分野で先端的な研究成果が生まれている。卓越した研究成果として、例えば、有機スピント源と磁性金属イオンからなる磁性材料の開発研究がある。安定な磁性三重項カンペンの発見にはじまり、室温でも安定な有機磁性体の合成、有機スピン-金属間に存在する相互作用の発見等、将来の有機磁性材料開発に道を開いた研究である。また、社会、経済、文化面では、無接触伝送技術を用いたメカトロ要素自律分散化と分散化されたユニットを統合制御する仮想伝播アルゴリズムの研究は学術的にも卓越した業績であるが、無配線化した柔軟で組み替え可能なシステムの可能性を示しており、産業の面で将来の自動化機械の進歩の鍵となるものであることは、相応の成果である。

以上の点について、工学部・工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、工学部・工学研究科が想定している関係者の「期待される水準に

ある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

生物資源学部・生物資源学研究科

- I 研究水準 4-5-2(研究)
- II 質の向上度 4-5-3(研究)

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成19年度の教員一名当たりの平均学術論文数が3.23件、国内外の口頭発表が5.82件である。著書等の発表状況は189件、国内外の学会シンポジウムの開催は60件、国内外の招待講演は80件である。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が年51件（約1億1,570万円）で、採択率が過去4年間を通して30～44%となっている。その他の競争的外部資金の受入れ状況は、平成16年以降で科学技術振興機構（JST）、経済産業省、農林水産省など大型の競争的資金を多く獲得しているなど活発な研究活動が展開されていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、生物資源学部・生物資源学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、生物資源学部・生物資源学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、生命科学に関する基盤研究、地域に根差した研究推進、並びにプロジェクト型研究の各分野において優れた研究成果を収めた研究を挙げており、その中には国内の学術賞やJST戦略的創造研究推進事業（CREST）やJST戦略的創造研究推進事業発展研究（SORST）に採択された研究課題が含まれている。卓越した研究成果として、例えば、「植物系分子素材の高度循環システムの構築」、「大麦種子の皮裸性決定遺伝子の同定」、「ソムリエ・ロボットの完成」などがあり、国際的に高い評価の成果を上げている。社会、経済、文化面では、地域に根差した研究活動を推進しており社会的に有用性の高い研究を目指しているが、その成果は学術的研究に比べ低く、全体的に相応の業績である。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、生物資源学部・生物資源学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、生物資源学部・生物資源学研究科が想定している関

係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

